

#### 4. 子どもと家族へのボランティア活動

事業	内 容
ボランティア 受入要領	あいち小児保健医療総合センターボランティア受入要領（H13.11.1）の策定 （資料1）
ボランティア委員会	第1回：受入要領について、ボランティアの受入について （資料2） 第2回：受入状況、組織化の現状、講演会・交流会、活動報告集について
ボランティア募集	・県社協・近隣社協・名古屋市社協・大学・大府市各施設・県民生活部社会活動推進課 などに、ポスター掲示・チラシ配布依頼 （資料3） ・社協便り、広報、NHK ボランティアネットなどに募集案内掲載
事前 オリエンテーション	ボランティアの申し込みのあった方を対象に実施。実施の翌月から活動開始。 内容：病院の子どもへの対応、子どもへの安全配慮、感染防止、ボランティア活動について、ボランティア活動保険についてなど （資料4）
ボランティア 受入状況 活 動 内 容	1 登録者数 2 ボランティア活動時間 3 ボランティア活動内容 （資料5）
事 後 研 修 会	ボランティア活動中の方を対象に実施。研修と交流を目的とする。 （資料6） 内容：「子どもと家族の心によりそうために」 話し合い、活動の現況報告他
教 育 研 修	ボランティア活動中の方、地域の希望者を対象に実施 （資料7） 内容：ボランティア講演会 「今、一歩踏み出す勇氣 - ボランティアで輝く自分をみつけよう - 」
ボランティア 活動報告集の作成	ACHEMEC の仲間たち - 子どもと家族の心に安心とやすらぎを -

(目的)

第1 この要領は、あいち小児保健医療総合センター(以下「センター」という)でのボランティアを円滑に受け入れるために、活動内容等について必要な事項を定める。

(ボランティアの活動)

第2 ボランティアの活動は、善意で無報酬とし、活動内容から次の2種類に分類する。

- (1) 「子どもボランティア」は、子どもの話し相手や遊び相手、学習指導、定期的な行事やプレイルーム活動、受診する子どもの兄弟の相手、入浴介助や食事介助、総合案内や外来での案内、外国語・手話通訳、図書館事務など、子どもに関すること。または、雑木林や植木の手入れやセンターの美化などの環境整備、催し物の企画運営など、施設運営に関すること。
- (2) 「ボランティア・キッズ」は、活動プログラムをセンターが組んで募集する、高校生・中学生・小学生によるピア・ボランティア活動。

(組織)

第3 ボランティアの円滑な受け入れを図るため、保健室をボランティア窓口とし、活動する部署には各部署担当責任者を置く。

2 ボランティア窓口はコーディネーター機能を持ち、ボランティアの受け付け、登録、ボランティア委員会の事務などを行う。

3 各部署担当責任者は、ボランティア窓口と連絡を密にしながら各部署におけるボランティアの受け入れに必要な業務を行うとともに、ボランティア活動が円滑に行われるように日常的な連絡・相談・指導を行う。

(ボランティア委員会)

第4 ボランティア活動を円滑に進めるために、「ボランティア委員会」(以下「委員会」という)を設置する。

2 委員会は、各部署の担当責任者で構成する。

3 委員長は、センター長の指名する者とする。

4 ボランティア委員会事務局は、ボランティア窓口である保健室とする。

5 委員長は、必要と認めるときは委員会を開催する。

6 委員長は、必要と認めるときは、関係職員またはボランティア代表者を委員会に出席させることができる。

(ボランティア委員会活動)

第5 ボランティア委員会は次の各号について調整・検討を行う。

- (1) ボランティアの交流及び育成に関すること。
- (2) 職員の研修に関すること。

- (3) ボランティアに関わる広報に関すること。
- (4) 交流誌の編集・発行に関すること。
- (5) その他必要とされる連絡調整・情報交換に関すること。

(募集及び他機関との連携)

第6 ボランティアの募集は、原則としてボランティア窓口で行う。

- 2 ボランティア窓口は、ボランティア関係の情報収集やボランティアの募集に努めるために、社会福祉協議会、その他地域関係諸機関と連携を図る。

(受け入れと登録)

第7 あらかじめボランティア申込書(別紙様式1)に必要事項を記入し、ボランティア窓口に提出する。

- 2 ボランティア窓口は、事前研修の通知をし、事前研修を実施する。
- 3 事前研修の終了時、ボランティア活動を希望する個人又は団体は、感染症に関する問診票(別紙様式2)を提出し、希望部署の申し込みをする。
- 4 ボランティア窓口は、希望部署の申込を受け、各部署と協議の上、活動部署を決定し、センター長の決裁の上、ボランティア登録証(別紙様式3)を発行し、ボランティアとして登録する。

(オリエンテーション)

第8 ボランティア活動を開始するにあたっては、ボランティア窓口、又は各部署担当責任者が、各部署の目的など、実情に応じたオリエンテーションを行う。

(ボランティアの注意事項等)

第9 ボランティアは、関係職員の指示に従うものとし、独自の判断で行ってはならない。

- 2 ボランティアは、活動で知り得た患者の秘密を他にもらしてはならない。
- 3 ボランティアは、政治的、又は宗教的その他特定の目的のための活動を行ってはならない。
- 4 伝染性疾患又はその疾患のおそれのある者は、ボランティアになることができない。

(活動の停止、取り消し)

第10 センター長は、ボランティアが前条の注意事項等に違反したときは、その活動を停止、又は取り消すことがある。

(活動記録)

第11 ボランティアは、ボランティア活動記録(別紙様式4)にその日の活動を記録し、ボランティア窓口に提出する。

- 2 ボランティア・キッズについては、感想文などを活動記録とし、ボランティア窓口に提出する。

(報告)

第12 ボランティア窓口は、定期的に、ボランティアの受け入れ及び活動状況を、ボランティア委員会に報告する。

(交流及び育成)

第13 ボランティア窓口はボランティアの継続的活動を促進するために、ボランティア同士の交流及び職員とボランティアとの意見交換の場と機会を設ける。

2 ボランティア窓口はボランティアの育成を図るために、講演会・研修会の機会を設ける。

(職員の研修)

第14 ボランティア窓口はボランティア活動を円滑にするために、職員の研修を行う。

(ボランティア保険)

第15 ボランティア活動を行う個人又は団体は、市町村社会福祉協議会等のボランティア活動保険の加入につとめる。

(事故の責任)

第16 ボランティアが活動中に発生した事故等については、原則としてボランティア活動保険の範囲内で処理する。

(健康に関する証明書の提出等)

第17 ボランティアが伝染性の疾患に罹った危険のあるときは、速やかに各部署担当責任者に申し出て活動を中止する。

2 各部署担当責任者は、必要に応じて健康に関する証明書等を求めることができる。

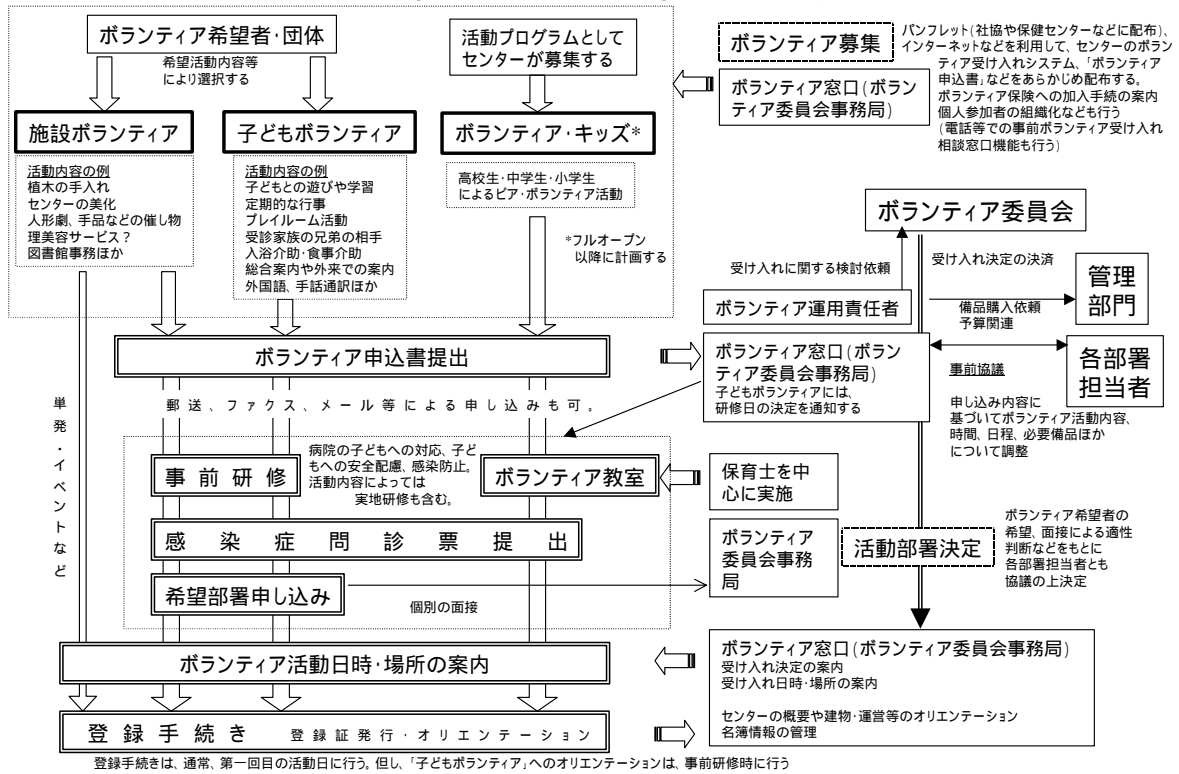
(その他)

第18 その他、不定期や単発のボランティアなどで、この実施要領になじまないものについては、実状に応じた対応をとる。

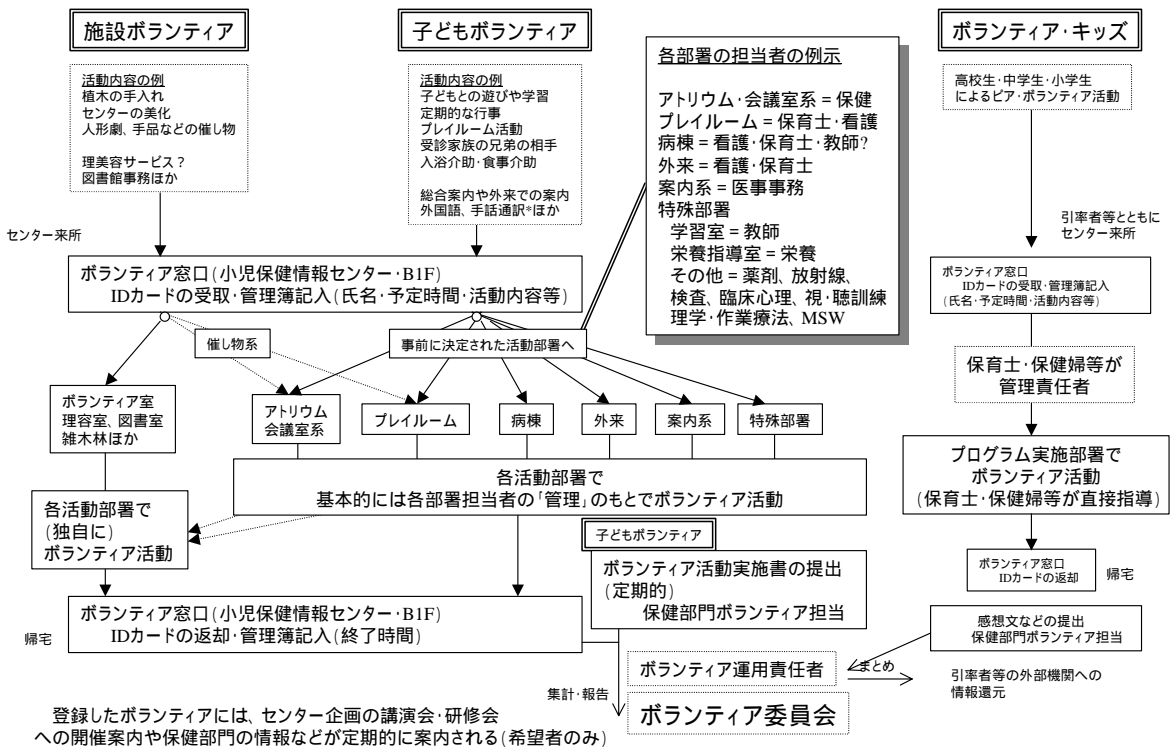
(付則)

この要領は、平成 13 年 11 月 1 日から施行する。

# ボランティアの申し込みから登録までの運用フロー



# ボランティア活動に関する管理・運用フロー



## ボランティア申込書

年 月 日

あいち小児保健医療総合センター長殿

申込者 住 所

氏 名

下記のとおり、ボランティア活動をしたいので承認してください。

氏名・団体名 (団体の場合 責任者の氏名及び 人数)	ふ り が な 年 月 日生 (責任者始め 人)
住 所	〒
電 話 番 号	TEL 携 帯 FAX E-mail
申し込み経緯	社会福祉協議会 個人的紹介 直接 その他( )
希望する活動	
活動希望期間	年 月 日 から 年 月 日まで
定期的な活動の場合	週 回・毎週 曜日・月に 回(第 曜日)・不定期( )
活動時間帯	午前・午後 : から 午前・午後 : まで
ボランティア経験	
特 技	
ボランティア保険	加入済 未加入
備 考	

## 感 染 症 問 診 票

平成 年 月 日

氏 名		年 齡	歳
-----	--	-----	---

下記の感染症について、該当する番号に をつけてください。

・水痘（水ぼうそう） 1.感染した 2.感染したことがない 3.不明  
4.ワクチンをうった（時期 ） 5.抗体がある

・風疹（三日ばしか） 1.感染した 2.感染したことがない 3.不明  
4.ワクチンをうった（時期 ） 5.抗体がある

・おたふくかぜ 1.感染した 2.感染したことがない 3.不明  
4.ワクチンをうった（時期 ） 5.抗体がある

・はしか（麻 疹） 1.感染した 2.感染したことがない 3.不明  
4.ワクチンをうった（時期 ） 5.抗体がある

・ツベルクリン反応 1.陽転（時期 2.不明） 3.陰性 4.不明

・BCG接種 1.した（時期 2.不明） 3.したことがない

・結核治療 1.した（時期 ） 2.したことがない

・家族や友人等に、過去に結核の治療をした、あるいは現在治療中の方が  
1.いる（誰ですか ） 2.いない 3.不明

・健康診断(胸部エックス線検査を含む)を受けたことがありますか  
1.ある（H 年 月 日） 2.ない

実施した方のみお答えください

結 果 1.異常なし  
2.異常あり（ ）

【 表 】

あいち小児保健医療総合センター									
ボランティア登録証									
_____様									
子どもや家族の気持ちを和らげ、明るく、さわやかな 「あいち小児保健医療総合センター」を創るため、 応援して下さるボランティアとして登録します。									
平成 年 月 日									
あいち小児保健医療総合センター センター長 長嶋 正實									

【 裏 】

<p>ボランティアとして…</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 時間を守ってください。</li><li>・ 各部門のボランティア担当の指示にしたがってください。</li><li>・ 患児や家族、センターに関するすべての情報の守秘義務を守ってください。</li><li>・ 政治、宗教活動、その他特定の目的のための活動は持ち込まないでください。</li><li>・ いつも笑顔を忘れず、謙虚な気持ちとことばづかいで接してください。</li></ul>
--



## ボランティア活動記録

活動年月日	年 月 日( ) 午前・午後 : ~ :
団体名・氏名	
人数	ボランティア 人
活動場所	
活動内容	
<p>本日は、センターでのボランティア活動ありがとうございました。 今日のご感想をお書きください。また、その他活動していて何かお気づきのこと（ご意見、ご要望など） がありましたら、お聞かせください。</p>	

委員会名	第1回 ボランティア委員会
開催日時 場所 参加者	日時 平成13年10月3日(火)午後2時30分~午後4時 場所 会議室 参加者 別紙 14名
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティア受入要領について(資料1)</li> <li>2 平成13年11月1日からのボランティア受け入れについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前オリエンテーションについて(資料2)</li> <li>(2) 外来・病棟での受け入れについて</li> </ol> </li> <li>3 今後のボランティアへの研修について</li> </ol>
内容	<p>現状：現在30名程の申込がある。社協はじめ各所に募集案内中。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティア受入要領について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症問診票(別紙様式2)については、プライバシーのこともあり、注意してとってほしい。事前に小児の病院であり、必要性を説明すること。</li> <li>・ 保健室が事務局で募集も研修も企画。活動については、各部門担当者が責任をもって指導にあたってほしい。</li> <li>・ 学校からの介護体験研修を受けると、研修費を病院は貰え(一人1500円)、しかも教育された学生がボランティアとして得られる。</li> </ul> </li> <li>2 平成13年11月1日からのボランティア受け入れについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前オリエンテーションについて(資料2) <p>平成13年10月15日(月)13:30~15:30に実施 グループになっての自己紹介を追加 希望部署の申込は、最後に面接をしながら受ける。</p> </li> <li>(2) 外来・病棟での受け入れについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰が見てもわかる格好がよい。エプロンは職員と同じ色を用意。名札では分かれる。今後、困れば違う色のエプロンなど検討。</li> <li>・ 11月の早急な病棟へのボランティア導入は難しい。個別性も高く、十分な研修が必要。日福大の育っているグループの利用などを考えたほうがいいのでは。</li> <li>・ 外来の希望部署：回転ドア、総合案内、各プレイルーム、心療内科受診の多動の子など、危険がないように見守る、など。</li> <li>・ 各部門担当者が責任を当初は持つが、将来はボランティアリーダーがみていけるようになるとうい。グループ化を。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教団体の場合も、布教目的でなければ受け入れる。</li> <li>・ グループ化は焦らない方がよい。グループが足を引き合うことも。</li> </ul> </li> </ol>

## 第2回 ボランティア委員会報告

委員会名	第2回 ボランティア委員会
開催日時 場所 参加者	日時 平成14年2月21日(火)午後5時30分~午後6時30分 場所 会議室 参加者 別紙 16名
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティア受入状況について ...資料のとおり</li> <li>2 ボランティアの組織化についての現状</li> <li>3 ボランティア講演会・交流会について(H14.3.3)</li> <li>4 その他：ボランティア活動報告集について 病棟でのボランティア活動について</li> </ol>
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティア受入状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に外来、プレイルームで活動中。</li> <li>...まだ、ボランティアのいない時間帯もあり、募集の必要あり。</li> <li>3月大学卒業生もあり、ボランティアも卒業(聞いているのは3人)</li> <li>・生花の生け込みのボランティアが月2回活動中。</li> <li>・理美容、絵画指導、マジック指導の申し出あり。</li> </ul> </li> <li>2 ボランティアの組織化についての現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターホームページからボランティアのページへもリンクを。</li> <li>...ただし、プライバシーへの配慮は依頼する。</li> </ul> </li> <li>3 ボランティア講演会・交流会について(H14.3.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の申し込みはまだまだ少ない。呼びかけを。</li> <li>・講演前後にボランティアの事業あり。</li> <li>・当日の職員の呼びかけを、本日出席の委員からもよろしく。</li> <li>・準備について：保健室で対応</li> </ul> </li> <li>4 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動報告集について 初年度の活動のまとめを残し、センター事業紹介時などに活用。</li> <li>・病棟でのボランティア活動について 学習ボランティア：水曜日、4～6時、7～8：30に実施。 カルチャー広場：月・火曜日にカルチャー広場で絵の指導など。</li> </ul> <p><b>【意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回転ドア、FAXコーナーのボランティアもお願いしたい(飯田)。 ...伝えてはあるが現状ではまだ人員不足。</li> <li>・アニマルセラピーの勉強会を予定(山崎) ...治療には目標と計画がある。性急な導入は避ける。 まずは勉強会で学ぶことから。</li> </ul> </li> </ol>

<p>実施日時</p>	<p>平成13年10月15日(月) 平成13年11月19日(月) 平成13年12月17日(月) 平成14年1月21日(月) 平成14年3月18日(月)・・・5回実施 時間：午後2時から午後3時30分</p>
<p>オリエンテーション内容</p>	<p>1 あいさつ <span style="float:right">センター長 長嶋 正實</span></p> <p>2 研修会                  (1) ボランティアさんに望むこと - 出会いを大切に、共に成長していくために -  <span style="float:right">医療ソーシャルワーカー 大橋 信彦</span>                  活動上のルールを守ることの大切さについて。特に、時間を守ること、守秘義務を守ること、政治宗教活動はしない、笑顔を忘れず謙虚にな気持ちとことばづかいで、困ったら相談を。</p> <p>(2) 外来・病棟で会う子ども達は... - 安全への気配りと、感染を防ぐために -  <span style="float:right">外来婦長 鈴木 友子</span>                  病院は感染源と易感染者が混在し感染症の予防が大切。健康管理に気をつけ、体調の悪い日は休む。特に手洗いとうがいの励行。感染症については心配なら抗体価を調べておくなど。</p> <p>(3) 遊びは心の栄養です - 子どもひとりひとりと真剣に楽しむために -  <span style="float:right">保育士 原 純子</span>                  子どもの療養環境コーディネーターとして。                  遊びは心の栄養です：「衣・食・住・遊」。共に過ごし共に創る時間と空間をめざして。</p> <p>(4) 子どもの心、親の心、自分の心 - ひとりの人間として、出会うことを大切に -  <span style="float:right">臨床心理士 海野 千畝子</span>                  ボランティアをしようと思った自分自身をまず意識。今後のズレを乗り越え変えていけるように。</p> <p>3 ボランティア活動の内容と時間について <span style="float:right">保健師 塩之谷 真弓</span></p> <p>ボランティア活動保険について <span style="float:right">大府市社会福祉協議会ボランティアセンター 杉田 崇幸</span></p> <p>4 自己紹介、施設見学ツアー</p> <p>5 ボランティア保険申し込み、感染症問診表提出、希望日について (別添資料参照)</p>

平成14年度、ボランティアオリエンテーションについては、奇数月に隔月に実施予定。  
 研修内容について、今後もセンター内で連携をとりながら、充実した内容にしていきたい。

ボランティア受入状況・活動内容

(資料5)

1 登録者数

月	H13.10月	11月	12月	H14.1月	3月	計
人数	38	34	18	18	23	131
団体	1				1	2

団体：小児の森プロジェクト・・・センター敷地内の森の手入れ

ともしび・・・大府市ボランティアセンター登録のミシンでの活動グループ

2 ボランティア活動時間

月	H13.11月	12月	H14.1月	2月	3月	計
実活動者	37	55	56	53	37	
延活動者	114	146	110	119	80	
延活動時間	340	496.5	358	358	249	1801.5

3 ボランティア活動内容

主な活動内容

- ・ 外来案内：センター内の案内、受付や再来機、院外処方FAXの使用法など
- ・ プレイルーム活動：積み木、電車のおもちゃなどでの子どもとのふれあい
- ・ ミニ水族館活動：エサやり、水槽の掃除、水換えなど水槽管理、子どもとのふれあい
- ・ 季節の飾りつけ

その他の活動

- ・ 花の活け込み：月に2回、オープン以来活動中
- ・ 病棟での学習サポート（試行段階）：H13.12.26～活動を開始
- ・ 病棟でのカルチャー広場活動（試行段階）：H14.2.25、絵画指導を実施
- ・ 行事ボランティア  
クリスマスコンサート：H13.12.26実施

団体でのボランティア活動

- ・ 小児の森プロジェクト：センター敷地内の森の手入れ  
小児の療養環境としての森の手入れ、間伐材の有効活用（クラフト、おもちゃ他）等
- ・ ともしび：大府市ボランティアセンター登録のミシンでの活動グループ  
子どものための療養物品や、フルオープンに向けての人形の製作

## 研修内容 事後研修会

実施日時	平成14年2月18日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで		
講師	あいち小児保健医療総合センター 臨床心理士 大河内 修		
テーマ	「子どもと家族の心によりそうために」		
参加者数	ボランティア 27人		
研 修 会	<p>内容の要旨</p> <p>1 ボランティアに期待すること</p> <p>(1) 子どもが退屈せずに過ごせるように</p> <p>(2) 子どもが事故を起こさないように</p> <p>(3) 子どもが病院に来るのをいやにならないように (親の支援や相談などは主体的な役割ではない)</p> <p>自分の課題をはっきりさせることは重要なこと、困ることが大切で自分の発見につながる。 解決方法はそれぞれなので、自分自身で見つけていくことが必要。</p> <p>2 予想される困ったこととその解決方法の案...答えはない。見つけていくこと。</p> <p>子どもがなつかない：声をかけてみる、子どもの目線で動いてみる、自分が楽しんでみる、子どもの動きを真似てみよう、子どもに遊びを教えてもらおう</p> <p>子どもが言うことを聞いてくれない：声による制圧は無理、原因を除く(その物を隠す、使えない状態を作る等)</p> <p>親と上手いいかない：親と上手くやる必要はない、子どもと一生懸命遊べば充分、子どもの良いところを伝えてあげよう</p> <p>親から理解してもらえない：背後要因が様々なので「そういう人もいる」程度に、ちょっとだけ自分を振り返ってみよう</p> <p>親から深刻相談を受けた：話を聞くだけで充分(アドバイスは不要)、金品の授受はしない、プライベートにはお互いに関わらない</p> <p>話し合い ボランティア活動で出会った場面について、皆で話し合う。</p>		
そ の 他	<p>1 ボランティア活動の現況報告と確認事項</p> <p>ボランティア事務局から 保健師 塩之谷真弓</p> <p>プレイルームから 保育士 原 純子</p> <p>2 ボランティアグループから</p> <p>役員会報告 会長 浅野 純子</p> <p>2 ボランティア講演会・交流会について</p> <p>手話歌に挑戦! 「手のひらを太陽に」 副会長 杉本 純子</p>		

## 教育研修 ボランティア講演会

	実施日時	平成14年 3月 3日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
	講師	岩手県立大学教授兼国際社会人教育センター長 渡邊 一雄 氏
	テーマ	「今、一步踏み出す勇氣 - ボランティアで輝く自分をみつけよう -」
	参加者数	参加者 136人
講演会		<p>(講師の紹介) 1959年一橋大学法学部卒、三菱電機入社後、様々な企業人としての経験をつまれる。全国社会福祉協議会ボランティア振興企画委員、東大病院にこここボランティア代表世話人、日本福祉囲碁協会会長、日本社会福祉大学理事、日本フィランソロピー協会理事。ライフワークとして日米の相互理解とフィロソロピー普及活動に活躍中である。</p> <p>キーワードは「Let's roll」</p> <p>直訳すれば「さあ、行け」という意味になるのであるが、それを分かりやすく言うところのテーマである「今、一步踏み出す勇氣」となる。</p> <p>社会貢献に目覚める段階として(受け身の状態)と(積極的な状態)の間に『飛躍』の段階がある。「ボランティアの意義は認める、やってみたいがやる場所がない、機会がない」と思っている人が、「いつ、どこで、どのように」ボランティアをするかを見つけ(出会い)実際に行動をしようと思う、その勇氣である。</p> <p>ボランティアの報酬は「感動」であり、その「感動」は「生きている証」になるだろう。</p> <p>病院側の「ボランティアをこき使ってやろう」という意識、ボランティア側の「やってやっている」意識は厳禁であり、ボランティアを定着させない負の要因となる。</p> <p>ボランティアであっても責任はある。しかしボランティアは一言で言えば「くるたのしい」。苦しいが楽しいのである。</p> <p>ほんの少しの大切な約束事もある。時間などを守ること。そして約束ごとはみんなで決めて、決めたことはみんなで守ること。</p> <p>さあ、みんなも、Let's roll!</p>

教育研修 ボランティア講演会

研修者によるアンケート評価

アンケート回収数：68枚（回収率 50.0%）

講演会名	ボランティア講演会	
アンケート質問項目	1 何で知ったか	2 出席動機
	当センター内 23人 33.8%	ボランティアに興味があった 37人 54.4%
	社協 16人 11.8%	講演のテーマにひかれた 25人 36.8%
	当センターホームページ 3人 4.4%	講師にひかれた 12人 17.6%
	その他 26人 38.2%	
	3 ボランティアの経験がありますか	
	あり 46人	各種 NPO 活動、子ども達の健全育成、障害者支援 6、特養活動、おもちゃ修理、当病院ボラ 1 1、災害ボラ 2、車での送迎、知的障害者のふれあい、ブラジルの子との遊び、ブラジル人担当日本語教室、院内林の整備 3、院内イメージ、図書館ボラ、災害支援、老人介護 2、障害児保育ボラ、老人ホーム行事・話し相手 4、施設行事ボラ、国有林の手入、ゴミ拾い、福祉の店レジ、要約筆記通訳、精神保健福祉活動、日本語教室、影絵、病院ボラ 1、車椅子マツコ手伝、学童保育ボラ
	なし 22人	やってみたいと思いますか：はい 19人、未記入 2人、いいえ 1人

感想

- ・当センターボラの申し込みをしてから期間があり不安が大きくなってきたところでした。今日の講演を聞いて、不安はともかく、まず一歩踏み出そうと決意を新たにしました。
- ・大変面白く聞けた。元気をもらうことができた。
- ・自分の今後に大変役に立つお話が聞けた。先生の生き方に感動しました。
- ・とても良かった。大切な人生を生き生きと感動をもって生きたいと心から思った。自分でできることは喜んでしていきたい。
- ・ボランティアの意味、また、人生をよりよく生きる方法を教えられた気がします。
- ・元気はつらつ、楽しいお話しどうもありがとうございます。今は難しいのですが、近い将来、誰のためでもない、自分を大きく成長させるためにも、ボランティアしたいと思います。
- ・仕事が忙しいと、自分が言い分けしているのに気づきました。やれるところから踏み出したいと思います。先生のお話を聴いて感動しました。ありがとうございました。
- ・ボランティアに、今日一歩進んだかなと思います。
- ・自分を見直し見つめなおす機会になりました。
- ・ボランティアをしてみようとする私にとって心強い話が聞けて、駆けつけて来て良かったと思いました。長い人生の中、少しずつボランティアをしていきたいと再認識しました。
- ・具体的なお話で、ボランティアのあり方が明確になった。
- ・ボランティアの理解のために非常に有用でした。
- ・66歳、身体もあまり丈夫ではありませんが、月に1、2度のボランティアを続けようと思っていますが、時には気弱になります。今日の先生のお話を聞き、力と熱を与えられました。生きている限り、細々と続けようと思いました。
- ・非常に聞きやすく感動を覚える内容でした。私の周りでも上手にボランティアをされている方は、結局はボランティア活動によって自分自身が成長しているということを感じます。すばらしいことだと思います。
- ・一歩踏み出すきっかけになるお話をありがとうございました